

協同的に課題を解決するための「切り抜き新聞」作成 広島県立呉三津田高等学校

1 活動概要

本校の「総合的な学習の時間」では、協同的に課題を解決するための方策の一つとして、1年生1学期に「切り抜き新聞」づくりに取り組んでいる。これは、世界の諸課題をテーマとして選び、4～5人の班で壁新聞を作成するものである。中国新聞社主催のコンクールに応募するとともに、同じ作品を9月の三津田祭（文化祭）でも展示し、来校者に投票で優秀作品を選出して頂いている。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

1年生の1学期に、「詩のボクシング大会」と平行して実施している。高校生として、改めて社会に対する興味・関心を高めるとともに、自己の進路探究に結び付けていくことも期待している。

小・中学校で作成した経験のある生徒も増えてきたが、その多くが個人で取り組んだものである。本校では、それをグループで作成させることにも意義があると考えている。入学間もない時期であるが、新しいメンバーで一つの課題に向けて取り組ませることが、他の学習活動や特別活動などでも学習効果を高めると考えている。

また、公民科「現代社会」の導入部分にあたる「現代の諸課題」からも働きかけを行うなど、教科・科目との連携も図りながら進めている。

(2) 指導のポイント

- ☆ 世界の諸課題をテーマに様々な角度から探究させることで、多面的・総合的に考えさせる。（付きたいカ1）
- ☆ 一つの課題達成に向け、お互いを理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することを体験させる。（付きたいカ2）

3 学習指導案

◎本時の授業…「新聞テーマの設定」(1時間)(単元全体では8時間程度)

(1) 本時のねらい

- 持ち寄った新聞記事を検討することで、さまざまな視点があることに気付かせる。
- テーマ設定に向けた協議を重ねることで、協同性を高めるとともに、他者の意見を取り入れ、自分自身の考えをいっそう深化させる。
- 過去の最優秀作品を分析させることで、思考力・判断力を育成する。

(2) 対象学年 第1学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	○日程確認(ワークシート利用)	○ルール確認(作成期限の厳守) ○取組期間の確認	知識・理解 思考・判断
自力解決	○各自が持参した記事の説明 (個人の課題意識を発表)	○時間制限をかけ、簡潔に進める。	表現力
集団解決	○過去の最優秀作品の分析 作成のポイントを協議する。 ○テーマ設定 ポイントを再確認したうえで協議 ○作成上の課題の把握 現状で不十分な点などを把握する。 ○役割分担・準備計画	○記事内容・レイアウト・視点など さまざまな観点からの分析を促す。 ○高校と小中学校との作品の違いに についても検討させる。 ○今までの協議をふまえ、より高い次 元で設定できるようにする。 ○自分の進路志望との関連も推測さ せる。 ○ワークシートを利用	思考・判断 技能・表現 関心・意欲・ 態度
まとめ	○課題の再確認 ○自己評価(本時)	○次回までの課題の確認	

4 生徒の反応(授業後の感想等)

個人ではなく、グループ作業だったことに少し戸惑ったが、できた新聞が表彰されてうれしかった。

自分が希望する進路に関係するテーマだったが、新聞記事で理解が深まったし、班員のアイデアやレイアウトのうまさに感心させられた。